

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会(第 24 期・第 4 回)
議事録

1. 日時 令和元年 9 月 27 日 (木) 11:50~12:20
2. 会場 神戸大学百年記念館六甲ホール 会議室 B
3. 出席者： 中田節也 (防災科研)・井口正人 (京大防災研)・市原美恵 (東大地震研)・上田英樹 (防災科研)・篠原宏志 (産総研)・清水 洋 (九大大学院)・中川光弘 (北大大学院)・西村太志 (東北大大学院)・森田裕一 (東大地震研)
4. 欠席者：山岡耕春 (名大大学院)
5. 配布資料
資料 1 : IAVCEI 小委員会議事録 (24 期 3 回)
資料 2 : IUGG 分科会議事録 (24 期 4 回)
資料 3 : JpGU/IUGG 百周年セッション (IAVCEI) ppt
資料 4 : IUGG 総会代表派遣報告 HP 原稿
資料 5 : IAVCEI Newsletter 抜粋
資料 6 : 第 4 回 ACV トレーニングキャンプ
資料 7 : JSPS 申請書抜粋版 (※非公開資料)
資料 8 : 今後の会議予定
6. 議事概要
 - (1) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会の報告
・中田委員長より、2019 年 5 月 30 日に開催された地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 (第 24 期・第 4 回、資料 2) の報告があった。
 - (2) IUGG の百周年セッションについて
・中田委員長より、5 月に地球惑星科学連合大会の百周年セッションでの発表内容 (資料 3) の紹介があった。IUGG に所属する団体の学術総会の参加人数を比較すると IAVCEI だけが増加傾向にあるとの説明があった。また、日本火山学会の会員に対するアンケートの結果を報告したとの説明があった。
 - (4) IUGG 総会代表派遣報告について
・中田委員長より、第 27 回国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) 総会への代表派遣の報告があった (資料 4)。参加者総数は 3723 名であり、日本からの出席者は 292 名で国別ではカナダ、米国、中国に次いで 4 番目であった。IASPEI の会長に佐竹健治氏 (東京大学)、IAVCEI の副会長に井口正人氏 (京都大学)、執行役員に藤田英輔氏 (防災科研) が就任したことや、Early Career Scientist Award の 1 人に九州大学准教授の辻 健氏が選ばれたこと、次回の IUGG 総会が 2023 年 7 月にドイツ・ベルリン市で開催されることなどが報告された。

・IUGG 総会に参加した IAVCEI 会員が 230 名で全体の 6%と低く、この割合に応じて IUGG から IAVCEI に今後 4 年間予算が配分されることが報告された。

(5) IAVCEI の今後の方針について (資料 5)

・中田委員長より、IAVCEI Newsletter に基づいて今後の IAVCEI の方針について説明があった。すなわち、スポンサーを増やすこと、低所得国 (LIC) からの執行役員を増やすこと、コミッション数を減らすこと、WOVO を活性化することなどが紹介された。

(6) 次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトの動向

・清水委員より、「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」の中間評価が 7 月に行われたことと、結果まだ連絡されていないとの説明があった。

・西村委員より、人材育成コンソーシアムから台湾で開かれる第 4 回フィールドキャンプに参加すること、シンガポールの南洋理工大学で開かれるワークショップに参加することの報告があった。本年度ストロンボリ火山で行った International School of Volcanology 後に当火山が噴火した。イタリアの研究者側は来年度も当地で研修を行う方向で検討しているとの報告があった。

(7) アジア火山コンソーシアムの動向

・井口委員より、2019 年 10 月 28 日-11 月 2 日に台湾で開催予定の第 4 回フィールドキャンプ (資料 6) と、今後の予算獲得のために JSPS の研究拠点形成事業に申請している内容 (資料 7) について説明があった。

(8) その他の活動報告

・市原委員より、SATREPS プロジェクト「コロンビアにおける地震・津波・火山災害の軽減技術に関する研究開発」(2015-2019 年) について、今年度に最後の会議が現地で予定されているとの説明があった。

・井口委員より、アナ・クラカタウの 2018 年 12 月の噴火を対象にした国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID) についての説明があった。フィールド調査を行うためのインドネシアからの許可 (リサーチパーミッション) 取得に大変苦勞している。

・中田委員長から、前回議論した海域火山の国際共同研究に関して、産総研の石塚 治氏が本小委員会のオブザーバーとして情報提供することを了承、次回から出席予定であるとの説明があった。

(9) 今後の会議予定

・中田委員長より、今後のスケジュールについて資料 8 に基づいて説明があった。

・本小委員会の議事録や IUGG 分科会の議事録を、火山学会誌に忘れずに掲載することにした。